

C-17 母親と子供との関係について

すれちがい生活の中で共に家にいる時間の実態 その1 農家の場合

奈良女子大 ○砂田 孝子
北村 君

1. これからの家庭生活を考える場合、母親の就労ということが大きな問題になってくる。

母親の就労を可能にすると考えられる諸条件のうち、特に重要と思われるのが母親と子供との関係であろう。

この点に関しては育児・教育の分野に多くの研究を見ることができるが、母親と子供との communication のあり方、生活空間のあり方など住居管理の立場からも追求されるべきことである。

本研究は、母親と子供との生活空間を考える基盤として、現状でどのような communication の場が持たれているかを調べたものである。

2. 奈良市内の農家、商家、ホワイト・カラー層の3つの、立場の異なった家庭の母親を対象に、すれちがい生活の中で共に家にいる時間、すなわち、顔を合わせる可能性のある時間を調査した。

その第1報として、農家の母親とその子供達の場合について報告する。

3. 農家では、母親が農業という職業に就労していると考えられ、平日・休日をとわず起きてから寝るまでの時間のうち、子供も共に家にいる時間は、平均して3時間56分と意外に少ない結果が見られた。